



会の世話人として活動をする清水昭二さん

定年後、男性たちが地域に居場所を見つけないのは容易なことではない。現役世代は、休みの日でも仕事であったり、付き合いのゴルフなどで忙しいか、はたまた日頃の疲れを癒すため家でゴロゴロしていることが多い。そういう理由からか地域への関心もとかく希薄になりがちである。

こんな風に定年後の自分に不安を感じている男性や、あるいはすでにこのような環境に身を置いている男性は多いのではないだろうか？

会 会長の清水昭二さん（神山町）が中心になって今春に「韮崎男性ボランティアの会」が発足し、初仕事として市立病院での植木の剪定作業に汗を流した。

参加者の多くは日曜大工や庭木の手入れなどが得意という方も多く、気軽に集い、それぞれが持っている特性を地域に活かすのが目的だが、同時にもう一つ狙いがある。それが「ボランティアを通して、定年後に家にとじこもってしまっ男性に、もう一度外に出てもらうきっかけになってほしい」と清水さんは話す。

現在、会員は50代から上は80代の男性約15名で、一人暮らしの高齢者や障がいをお持ち

シリーズ ⑤ ならさきを元気にする人たち

生涯現役 男たちの力を地域に活かす

韮崎 男性ボランティアの会 世話人 清水昭二さん



ちの方などから寄せられる依頼を中心に活動をしているとのこと。庭木の剪定や、力仕事が必要とする家事などが作業の主だが、今後は会に賛同する仲間をもっと増やし、それぞれのスキルを活かせるよう幅広い分野に従事していくことが目標だ。

ボランティア活動によって地域で困っている方々の助けになるというのは当然のことだが、男性たちがボランティアを通して第二の人生に生きがいや喜びを感じ、地域の中で輝くことが男性ボランティアの会の本質ではないだろうか。

定年を迎え、人生に余裕とゆとりができた今だからこ



そ、未知の分野に挑戦したり、趣味や特技を役立てるボランティアがある。新しいことをはじめるのは何歳になっても楽しいものだ。

「生涯現役！今こそ出番だ。男たちの力を地域に活かしたい。」と力強く話す清水さん。男性ボランティアの会の活躍に期待をしてみよう。

（取材・記事 広報担当 歌田）